

興福寺中金堂 落慶法要(奈良市)

「300年ぶりの興福寺中金堂」/藤原氏の氏寺である興福寺の中金堂が300年ぶりに、710年に創建された当時の大きさを再建され、落慶を迎えるに至った



落慶法要の様



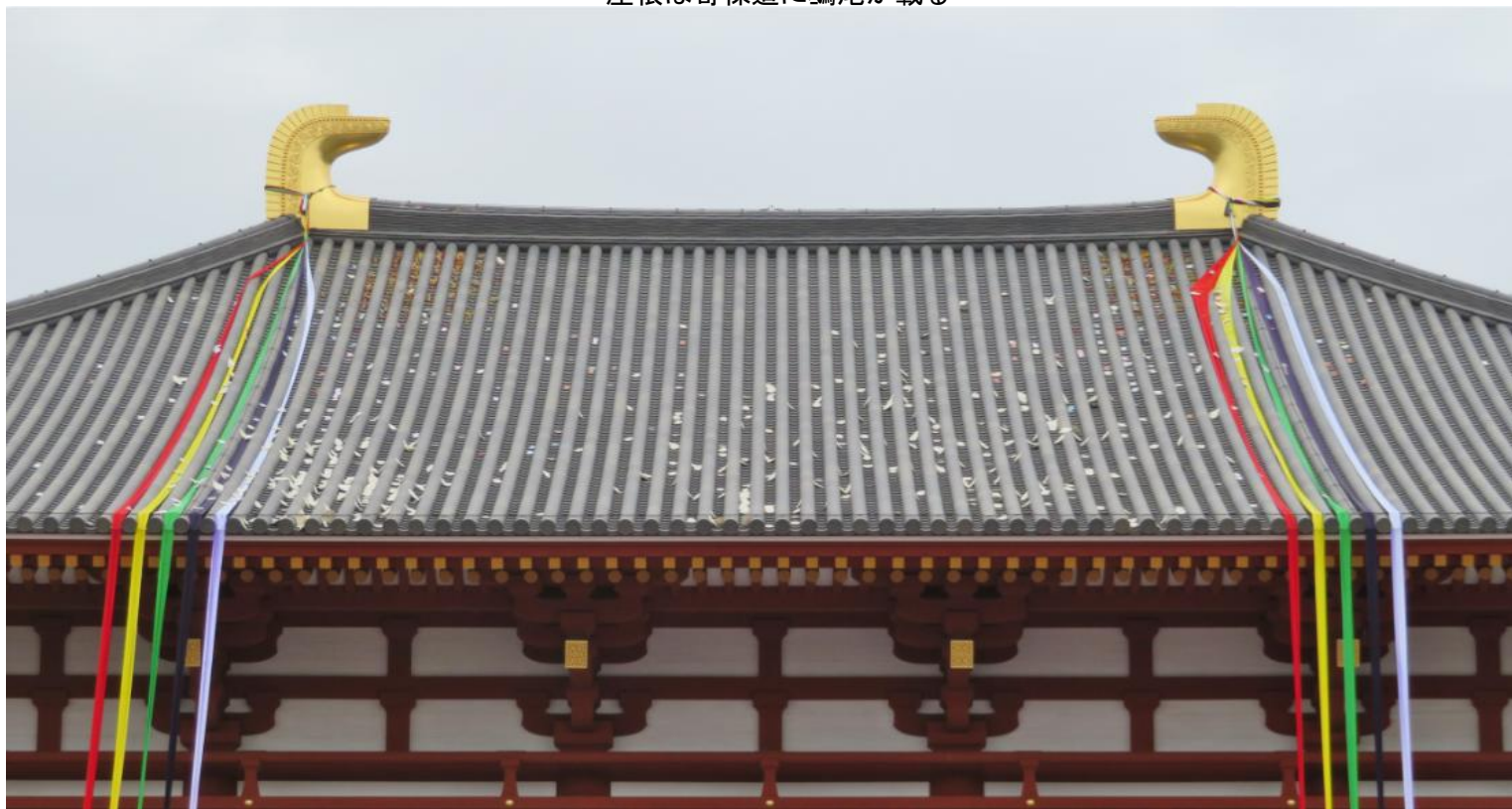
アップで見たところ/超大画面のモニターに法要の様子が映し出される



手前には回廊の礎石が残っている



屋根は寄棟造に鴟尾が載る



鴟尾をアップで見たところ



右側面を見たところ



組物は和様の三手先斗栱と中備の間斗束



上層部のアップ



裳階部のアップ



二軒で地垂木は丸、飛檐垂木は角の「地円飛角」



端部を見たところ



こな塩梅



上層のアップ



裳腰のアップ



右後方から



ライトアップ



正面



右側面



近くの奈良県庁舎屋上から興福寺を見たところ



中金堂の屋根が見えた



こちらは東大寺大仏殿の屋根も見えた

